

船舶事故調査報告書

平成23年7月21日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 石川 敏行

委員 根本 美奈

事故種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成23年1月29日 19時55分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港 水島港西1号防波堤灯台から真方位010° 2.7海里付近 (概位 北緯34° 30.8′ 東経133° 44.6′)
事故調査の経過	平成23年4月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 ^{にっとく} 日徳丸、497トン 140573、朝日海運株式会社（船舶所有者）、日和海運有限会社（船舶借入人） 76.23m×12.00m×7.01m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成19年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 56歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成7年6月22日 免状交付年月日 平成21年1月26日 免状有効期間満了日 平成26年11月24日
死傷者等	なし
損傷	本船 バルバスバウに凹損 岸壁 なし
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、船長が操船し、船首に一等航海士及び二等航海士を配置して着岸のためにふだんよりも速い速力で水島港の製鉄会社の専用岸壁（以下「本件岸壁」という。）に向かった。 船長は、いつもより速力が出ていると感じており、また、本件岸壁の後方にある工場の明かりがまぶしかったことから本船と本件岸壁との距離を正確に把握できずにいた。 本船は、右回頭して左舷着けすることとし、本件岸壁に接近する約100m手前で右舷船首錨を投入したのち、約70～80m手前で機関を後進に掛けて減速して錨鎖の繰り出しを止めたが、平成23年1月29日19時55分ごろ、左舷船首部が本件岸壁に衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約5m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期 日没時刻：17時31分ごろ

その他の事項	<p>本船は、出港時に容易に離岸できるよう、右舷船首錨を投入していた。 船長は、着岸予定時刻が迫っており、気持ちに余裕がなかった。 船長は、夜間、他船で本件岸壁に着岸した経験が2回あったが、本船では初めてであった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、水島港において本件岸壁に着岸作業中、船長が、本件岸壁との距離を正確に把握できず、減速操作が遅れたことから、左舷船首部が本件岸壁に衝突したものと考えられる。</p> <p>本船は、いつもより速力が速かったことが、本事故の発生に関与した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、水島港において本件岸壁に着岸作業中、減速操作が遅れたため、本件岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 着岸する岸壁までの距離の把握及び速力の把握を適切に行うこと 	